



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.89



柔軟な発想で製造現場をDX ニーズに即した商品開発で業界をリード

【プロフィール】

福岡県出身。ソフトウェア業界を経て、2001年5月に株式会社オートシステムに入社。2012年より同社副社長、2018年から現職。休日には愛犬と過ごす。

株式会社オートシステム 代表取締役 徳安 健司氏

ワイヤーハーネスから 医療機器まで幅広く製造

機械装置で使われるワイヤーハーネスをはじめ、工場における生産工程の自動化（FA）を支援する設備、レントゲン撮影台などの医療機器まで、幅広い製品を開発・製造するのが、福岡市西区拾六町の(株)オートシステムです。様々な事業で培ったモノづくりの総合力とユーザーの声に真摯に耳を傾けて開発してきた製品は、日本全国で活用され、経済産業省の地域未来牽引企業に選出されるなど日々躍進を見せています。その歴史は1983年、産業機械における電気系統の配線業務に始まりました。

代表取締役の徳安健司さんは「配線作業は工事工程の後半にあり、機械の

仕様が変更されればやり直し。また機械の下に潜り込まなければならず、作業環境も良くはありませんでした。そこで、機械の制御設計者に、現場で着脱が容易なコネクタ式の配線を前もって生産する方法を提案し、現在のワイヤーハーネス事業が始まりました」と話します。ケーブルの長さや接続するコネクタなどを事前に図面化し、ケーブルを束ねておくことで、現場での作業効率は大いに改善。さらに、ワイヤーハーネス事業だけに頼らない経営の安定化を図るため、掃除機用のモーターの量産をスタートします。各種自動機器の設計や製作にも乗り出しますが、国内メーカーの生産拠点が海外に移り、量産していた製品の受注は減少。大きなピンチを迎えます。そこで、

培ってきたモノづくりのノウハウと設計・製造から据え付け工事までを自社で完結できる強みを生かし、2001年7月に医療事業部を開設。大手メーカーからも定評のある技術力で期待に応えることで、大きな転換期を迎えました。ワイヤーハーネスの受注も増え、2008年にはコスト競争力をアップさせるためにベトナムに進出。現地法人を立ち上げたほか、東京営業所や大阪サービスセンターを設立するなど、事業を拡大しました。逆境を乗り越えていくために欠かせないポイントは、技術力だけではなく柔軟な“発想”だといいます。

「ピンチに陥った時、社内のリソースだけで考えていても良いアイデアは出てきません。ピンチの時こそ発想を柔軟にし、お客様と直接話して発想を広げ



1



2



3



4

1 部品や製造工程などは作業台に設置されたタッチパネル型のPCで確認。作業時間の大幅な削減につながっている

3 ベトナムの拠点では約700名の従業員が動いており、日本と同様のクオリティを保っている

2 レントゲン撮影台をはじめ、さまざまな医療機器はショールームに展示。医療関係者の声をもとに開発を進めている

4 材料の加工もすべて自社にて行うのがオートシステム流。そのためクライアントからの要望にも迅速に対応可能

たり、変えたりすることが重要です」と徳安さん。そうした新しい発想による開発力と製造力で、オートシステムは次々と新たな製品を生み出しています。

DXにもいち早く対応し 業務効率化を推進

モノづくりの現場において、いち早くデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいるというオートシステム。例えば、すべての製造工程にタッチパネル型のPCを設置して、ペーパーレス化を推進。製造工程の“見える化”に取り組んでいるほか、材料VMI(ベンダーマネジメントシステム)と呼ばれる納入業者在庫管理方式により、材料の調達リードタイムの大幅な短縮を実現しています。加えて、社内システムにおいても新しい技術やツールを積極的に導入。ウェアラブルデバイスや業務改善プラットフォームなどを活用することで、全社レベルで情報共有のデジタル化にチャレンジしています。

「社内のDXを強力に推進するにあたっては人的なハードルもありましたが、部門化することで社内しっかりと

浸透している印象です。私自身、前職がソフトウェア会社だったことから、DXは自分のカラーを打ち出している部分なのかもしれません。優秀な社員が揃っており、そこは当社の強みのひとつになっています」と徳安さんは強調します。

また、海外拠点のベトナム工場においても、工程の進捗や製品の仕様はリアルタイムで国内と共有。日本とベトナムで品質を相互に高めるためのコミュニケーションにもデジタルを活用しています。

一気通貫したモノづくりを 世界に展開する

材料の仕入れから加工、組み立てに至るまで一気通貫したモノづくりに取り組んできたオートシステムでは、ワイヤーハーネス、自動設備、医療機器の3つの柱を中心に事業を続けてきました。国内工場の生産力も強化しており、今後は海外展開も加速していくそうです。徳安さんは「今後、日本は少子高齢化により人口が下降していきます。一方、アジアを見れば人口は増えており、ベトナムにある海外拠点はますます存

在感を増していくはずですよ。そのため、日本国内では縮小する市場の中で勝負できる高付加価値の商品開発を行い、経済が発展していくベトナムではこれまで開発してきた医療機器を拡大していきます。」と意気込みます。

創業当時はわずか7~8名のスタッフでスタートしたオートシステム。製造現場も手作業が主流だった中、さまざまな工程のオートメーション化を目指す企業として名付けた社名が、オートシステムでした。研鑽を重ねてきたモノづくりの技術、そしてユーザーの声に応える柔軟性、迅速な対応などを武器に、世界を狙います。

取材日：2月1日



(株)オートシステム

〒819-0041 福岡市西区拾六町2-2-28

TEL:092-881-4533

<http://www.auto-system.co.jp/>